

参考資料

大学国際化指標

「大学国際化の指標策定に関する実証的研究」報告書
(J122 と J123 ページの間に印刷掲載の表)

大学国際化の指標策定に関する実証的研究

平成16年度～平成17年度 科学研究費補助金
基盤研究(A)(2) 課題番号 16203039

研究代表者 古城 紀雄(大阪大学)

研究分担者 山内 直人(大阪大学)
米澤 彰純(大学評価・学位授与機構、
現 東北大学)
北濱 榮子(大阪大学)
有川 友子(大阪大学)
近藤佐知彦(大阪大学)
黄 福涛(広島大学)
堀井 祐介(金沢大学)
秦 由美子(大阪大学)
芦沢 真五(大阪大学、現 慶応大学)
太田 浩(一橋大学)
大佐古紀雄(育英短期大学)
村澤 昌崇(広島大学)
鶴田 洋子(オックスフォード大学)
渡部 留美(大阪大学)

研究協力者 Ulrich Teichler (カッセル大学 ドイツ)
William K. Cummings (ジョージワシントン大
学、米国)
Roger Goodman (オックスフォード大学、英国)
Ka-ho Mok (ブリストル大学、英国)
Richard James (メルボルン大学、豪州)
Christa Olson (米国教育協会 ACE)
Jane Knight (トロント大学、カナダ)
Hans de Wit (アムステルダム大学、オランダ)

別表1: 大学国際化指標(チェックリスト)

大項目	中項目	小項目	評価の目的と評価課題	調査対象	調査・分析の手法	指標	ガイドライン	
大学の理 念、目 標、計画	A) 大学の国際化に関する公式見解	大学の歴史、建学の精神と国際化	大学の基本となる方針と「国際化」の目標に整合性が保たれているか、を確認する。	大学の刊行物、報告書など	資料分析およびヒアリング	大学が公表している基本方針に「国際化」の方針が明記されているか、理念や表現形態に齟齬がないかを評価する。	段階別評価	
	B) 責任執行体制	最高責任者の役割と権限	国際交流の最高責任者の学内での役割と権限を見ることにより、国際化がどれほど重視されているかを評価する。	理事会など大学執行部の組織図	組織図などの資料分析とヒアリング	学長、理事長などに対して国際交流最高責任者の学内での権限のランクを評価する。	段階別評価	
	C) 中長期計画および 戦略的目標(Goal) の設定	目標の明示	国際化の目標が明示されているかどうか、具体的な取り組みも含めた提案になっているか、などの評価をおこなう。目標が公表されている範囲、規模、媒体を確認する。	大学の広報誌他刊行物、学内文書、ホームページ	刊行物の場合は、発行部数や範囲についての分析をおこない、記載内容の認知度や組織内での影響力について分析。	大学の主要な刊行物において、当該大学が目指す「国際化」が具体的な目標とともに掲載されているかを確認し、その明確性や具体性を評価する。	段階別評価	
		目標設定のための合意形成	国際業務に直接かわらない職務部門においても、国際化の目標・目的への認識を共有し、目標に合意しているか、を評価する。(例: 単位認定における教務部門の理解、予算にかかわる財務部門の理解)	計画書および学内関係者	計画書分析とヒアリング	目標の認知度(学内外の関係者が目標をどれだけ認知しているか)を評価する。目標や計画の策定で、財務・教務部門など主要な部門責任者が具体案に合意しているか、という合意形成の度合いを数値としてあらわす。	段階別評価	
		計画の具体性	計画の具体性	大学全体の中長期計画と国際化の目標に一貫性がありか、を検証する。	大学の理念、中期目標・中期計画	資料の分析およびヒアリング	計画の内容、項目が大学運営全般全体の方針や計画と整合性がとれているか、を評価する。	段階別評価
				計画書に書かれた事業目標について、実施主体や所管部署が明示されているかを確認する。明示されていない場合は、実現性が乏しい。	業務分掌・分担	資料の分析およびヒアリング	個々の計画において、実施主体(責任部署)を明確になっているか、を評価する。	段階別評価
	計画の理解度	担当部門のスタッフがどのような作業プロセスで目標を実現するか、の理解度を評価する。スタッフが理解していない場合は実現性が乏しい。	国際業務関係スタッフ	国際業務担当部署のスタッフへのヒアリング	実現プロセスについて担当部署のスタッフの理解度を評価する	段階別評価		
	組織とス タッフ	A) 国際化の方針の決定機関と決定プロセス	国際化に関する大学委員会活動	国際化に関する意思決定機関が恒常的に機能しているかを評価する。	大学の公開資料文書	資料分析	意思決定において、決定機会(会議)の頻度、案件の平均処理期間の早さ、を評価する。	段階別評価
				各種委員会の責任分野と活動状況が明確化しているかを確認する。	大学の公開資料文書、委員会等の議事録	資料分析	大学内の委員会設置の趣旨、役割、責任分担が明示されている度合いを評価する。	段階別評価
				委員等の選考プロセスが妥当性があるかを評価する。	大学の公開資料文書	資料分析およびヒアリング	大学委員会の構成員においてバックグラウンド、分野に偏りがいないか、を評価する。	段階別評価
民主的な意思決定と情報公開			国際教育に関し、学生からの要望に対する配慮がおこなわれているか、委員会活動の情報公開がされているか、を評価する。	各大学の公開資料文書	ニュースレター・HP等の分析、ヒアリング	学生の意識調査の実施頻度と回答率、学生と国際交流責任者との意見交換会の実施頻度と参加規模、などを総合的に評価する。	段階別評価	

大項目	中項目	小項目	評価の目的と評価課題	調査対象	調査・分析の手法	指標	ガイドライン
組織とスタッフ	B) 組織と執行体制	国際関連部門の組織 目標と人員配置	大学としての目標設定に対応する部署単位 の目標設定がアクション・プランとなっている かを確認。	組織図および部署における目 標に関する文書	資料分析またはヒアリング	国際担当部署における目標設定とそれぞれのア クション・プランが明示されているか、を評定 する。	段階別評定
			国際関連スタッフ人員の大学教職員数に占 める割合から、大学が国際業務を重視して いる度合いを確認する。	人員配置状況	資料分析またはヒアリング	スタッフ数および大学の規模（教職員数）との 比率	数値による 評価
			目標設定に必要な人員配置がされている かを評価する。	人員配置および人員配置計画	資料分析またはヒアリング	目標に対応した人員配置計画と現状の充足率	数値による 評価
		国際関連部門のス タッフ	スタッフに求める能力や専門性とそれに適 合した人材が配置されているか、を評価す る。	職務に必要な能力(募集要項 など)。	スタッフに対するヒアリングを 通じて、スタッフによる相互評 価をおこなう。	要求される専門性に適合した人材が配置されて いるか、をスタッフ間の相互評価をもとに評定 する。	段階別評定
			各々のスタッフの業務内容が明文化されて いるか、を評定する。	職務分掌分担	資料分析またはヒアリング	職部分掌分担が明確に業務を規定しているかを 評定する。	段階別評定
			スタッフの身分がどのようになっているかを 把握する。(安定的な職場であるかどうかの 評価)	各々のスタッフの身分(専 任、兼任、常勤、非常勤、講 師、教授等)	資料分析	専任かつ常勤のスタッフの比率	数値による 評価
			必要とされる外国語とスタッフが対応できる 外国語を明らかにする。	スタッフの外国語運用能力の 証明書など	資料分析とヒアリング	業務上必要な外国語運用能力(何カ国の言語す るか)と実際のスタッフによる充足度	数値による 評価
		留学生の当該大学に おける貢献度	留学生が語学力や自国についての知識を 活かした貢献をしているか、を評価する。	学内での学生雇用に関する資 料	資料分析またはヒアリング	国際業務(通訳、入試広報など)により、語学力や 自国の知識を活かした学内業務にかかわっている 比率(全留学生数に対して学内業務に参加する学 生の比率)	数値による 評価
			留学生が当該大学において、人的資源とし て活躍しているか、を評価する。(一般業務)	同上	資料分析またはヒアリング	留学生のTA、RA、その他の学内業務にかかわっ ている比率(一般学生との比較)	数値による 評価
	教職員の多国籍化と 多言語・多文化対応	大学において、多文化、多言語の国際社 会に対応したスタッフを配置してい るか、を確認する。	大学職員録	資料分析	海外留学・研究歴のある教員の比率、増減	数値による 評価	
			大学職員録	資料分析	外国人教員数の比率・増減		
			公募実績	資料分析	教員採用における国際公募の実施状況		
			人事関係資料	資料分析	事務職員における外国人の雇用数		
			大学職員録	資料分析	外国大学の卒業者、学位取得者の人数		
	C) 国際化に対応する 能力開発と人事考 課	教員	国際化に対応するための教員に対するFD 体制がなされているか、実施状況を把握 する。		資料分析またはヒアリング	国際化に対応するため、教員向けの研修プロ グラム(FD)の実施状況(開催頻度と参加者数)	数値および 内容
		職員	国際化に対応するための職員に対するSD 体制がなされているか、実施状況を把握 する。		資料分析またはヒアリング	国際化に対応するため、職員向けの研修プロ グラム(SD)の実施状況(開催頻度と参加者数)	数値および 内容
		人事考課	国際的活動への貢献を的確に評価してい るかを確認する。	目標達成にかかわる人事考課	資料分析またはヒアリング	人事考課に際して、国際関連業務の評価を全体 の評価の中でどの程度組み入れているか、を評 定する。	段階別評定

別表1: 大学国際化指標(チェックリスト)

大項目	中項目	小項目	評価の目的と評価課題	調査対象	調査・分析の手法	指標	ガイドライン	
組織とスタッフ	D) 組織のアカウント ビリティ	危機管理対応	組織として国際業務に関して危機管理体制がとられているかを明らかにする。	国際関連業務に関するリスク管理体制	資料分析またはヒアリング	海外研修などにおける大学としてのリスク管理体制(保険、事故などへの対応)を評定する。	段階別評定	
予算と執行状況	A) 国際関係部門の予算構成	計画と予算の整合性	事業計画に適合した予算措置がおこなわれているかを確認する。(予算措置をしないまま新規の計画がされていないか確認)	予算書の確認	資料分析とヒアリング(国際化の目標に明記されている事項が予算項目のどこに対応するか、を確認する。)	目標に対応する予算項目と予算額は予算に明記されているか、を評定する。	段階別評定	
		外部資金と競争資金	新たな事業について、外部資金や競争資金に申請するなど、予算獲得の努力を継続的にこなしているか、を評価する。	競争資金等の申請状況および採択状況	資料分析	国際化に関連する競争資金の申請・獲得状況	段階別評定	
	B) 予算と執行実績	事業規模と予算の連動	大学全体の予算との比率から、国際関連予算の進捗を評価する。	予算・決算書および関連財務諸表	予算計画、実績、などの分析	国際関連予算の予算総額に占める割合、内訳、を年度別に確認し、予算の規模が国際関連事業の進捗に見合っているかを評価する。	数値および内容	
研究の国際的展開	A) 研究発表実績	国際学会等における発表状況	国際学会に関わっている教員がどの程度いるのかを把握する。	実績	資料分析	年間教員一人あたりの国際学会における発表数	数値による評価	
				実績	資料分析	年間教員一人あたりの国際学会誌への論文掲載数	数値による評価	
	B) 研究活動の国際的展開	海外との連携	個々の教員が具体的にどのような国際的な研究活動を行っているか、その実績を明らかにする。	実績	資料分析	年間における海外機関との交換交流した研究者数と期間	数値による評価	
				実績	資料分析	国際会議の主催回数および海外からの参加者数	数値による評価	
				実績	資料分析	国際共同研究プロジェクトの案件数(国際協力プロジェクトを別掲)	数値による評価	
				実績	資料分析	海外からの研究助成金の受入実績(件数と金額)	数値による評価	
	受入システム・情報提供・インフラ(入試、教育、住宅、多言語、環境)	A) 海外からの留学生や研究者受入システム	海外からの問合せ対応	海外からの種々の問い合わせに対し、柔軟な対応が取られているか、サービスとして提供できているかを評価する。	国際広報関係文書および英文ホームページ	資料分析	海外から留学希望者等が問合せをする窓口が部門ごとに明示されているか?を評定する。	段階別評定
					問合せへの対応	問合せ対応実績の分析	実際の実績件数、対応に要する期間、内容	数値および内容
英文ホームページ					資料(ホームページ)分析	英文ホームページの情報提供:必要な情報が整備されているか(ナビゲーションおよび検索機能の評価)	段階別評定	
国際広報・リクルート			海外の学生の存在も視野に入れた入学制度が整っているかどうかを見る。	募集要項・ホームページ	資料分析、ヒアリング	海外から直接留学生を受け入れられるシステムが確立しているか、を評定する。	段階別評定	
学業支援			外国人が大学で研究活動を行う上で、必要なサポート体制が整っているか(ソフト・ハード)を評価する。	成績・資格評価	担当部門資料	海外のディプロマ、資格や卒業・成績証明書の真偽や有効性を判定するシステムが開発されているか、マニュアル化されているか	段階別評定	
				募集要項など	担当部門資料	留学生に対する編入学受け入れ実績とシステムの有無(単位認定をしているか)	数値および内容	

別表1: 大学国際化指標(チェックリスト)

大項目	中項目	小項目	評価の目的と評価課題	調査対象	調査・分析の手法	指標	ガイドライン
受入システム・情報提供・インフラ(入試、教育、住宅、多言語、環境)	A) 海外からの留学生や研究者受入システム	学業支援	外国人が大学で研究活動を行う上で、必要なサポート体制が整っているか(ソフト・ハード)を評価する。	外国人に対する日本語プログラム充実	要覧、シラバス	教育・研究をするための日本語能力向上への支援。専門日本語、論文作成のための日本語教育クラスまたは個別指導の有無を確認し、評定する。	段階別評定
				ガイダンス資料など	担当部門資料	研究・学習に必要な各部署の情報(教務課、学生課、図書館、情報処理センターなど)が明確で容易にアクセス可能なものとなっているか段階別評定する。	段階別評定
		学生交流の支援	学生同士が交流を行うための組織が存在しているか、組織に対してどのような支援体制がとられているか、大学側から積極的にプログラムを提供しているのか等について、大学の学生生活交流動に対する理解の度合いを測る。	留学生による相互支援組織	報告書、ホームページ	留学生会(自治)活動への支援(資金、活動場所の提供)	数値および内容
				一般学生による国際交流団体組織	報告書、ホームページ	学生交流団体への支援(資金、活動場所の提供)	数値および内容
				国際交流促進のための交流プログラム	報告書、ホームページ	交流プログラムの提供(プログラム数、規模、参加対象者への広報)	数値および内容
	情報提供	あらゆる質問に対応できるような部門が存在するかを明らかにする。	迅速で公平な生活情報(含・奨学金、リサイクル用品など)の提供体制	担当部局資料	情報提供のプロセスがシステム化されているか(問合せ窓口の明示、情報収集プロセス)を評定する。	段階別評定	
	B) 外国人受入支援(生活)	留学生および外国人研究者用の宿舍	大学が管理する宿舍、および公的機関において割り当てられる宿舍などが必要物件数に対して、どの程度充足しているかを評価する。	住宅関連資料	資料分析	大学および公的機関から提供する宿舍の必要数に対する充足状況	数値
			民間宿舍に関する情報提供や斡旋を効果的におこなっているか、を評価する。	宿舍情報に関する資料	資料分析	住宅情報の数。宿舍探しに必要な情報が提供されているか、どのくらいサポートしているのか段階別評定を行う。	数値および段階別評定
		地域生活への適応	地域で生活していく上で必要な情報や知識が提供されているかを明らかにする。	日本語教育を通じての受入支援	担当部門資料	生活日本語がクラス・個別指導として提供されているか評定する。	段階別評定
				家族支援	担当部門資料	家族のためのサポート体制(日本語教育、出産・子育てに対する支援等)について段階別評定を行う。	段階別評定
文化・宗教・習慣		外国人が日本にスムーズに適応するための支援ができていのかどうか明確化する。	宗教・信条・習慣等に起因する摩擦の理解と回避	担当部門資料	文化・習慣摩擦理解についての講義があるか、オリエンテーションの有無(開催回数と参加実績)	数値および内容	
学生生活		日本人学生と同様の学生生活を送れるような支援体制ができていのか、留学生にとって不利な状況にあるものをどのくらいカバーできているか明らかにする。	留学生向け刊行物、ホームページなど	担当部門資料	学内情報提供の手段とプロセスがどのような形で提供されているか、ブックレットHP等での提供数	数値および内容	
			就職・進学に関する相談・ガイダンスなどの資料	担当部門資料	留学生のキャリア(就職・進学)に対する支援、セミナーの開催数	数値および内容	
国際連携の多面的な推進		A) 大学間連携	交流協定・コンソーシアムなどの連携が有効に機能しているか	大学の広報誌、刊行物、自己点検・自己評価報告書	資料分析、ヒアリング	交換プログラムや実績、規模、相互の充足状況などにより、総合的な評価をおこなう。	数値および段階別評定
	どのようなタイプのコンソーシアムやアライアンスに加盟しているかを見る。		大学の広報誌、刊行物、自己点検・自己評価報告書	資料分析、ヒアリング	国際的な大学のコンソーシアムやアライアンスへの加盟(どういう組織に加盟しているか)	数値および内容	

別表1: 大学国際化指標(チェックリスト)

大項目	中項目	小項目	評価の目的と評価課題	調査対象	調査・分析の手法	指標	ガイドライン
国際連携 の多面的 な推進	A) 大学間連携	交流協定・コンソーシアムなどの連携が有効に機能しているか	プログラムや活動の意義、規模、実施頻度など、より具体的な実施状況を見る。	大学の広報誌、刊行物、自己点検・自己評価報告書	資料分析、ヒアリング	各プログラムや活動の趣旨・目的、具体的な活動内容(要旨)と期間、実施状況(参加者数と種別)	数値および内容
	B) 海外拠点	海外拠点で実施しているプログラムや活動(どのようなプログラムや活動を実施しているか)	海外拠点の設置状況の評価する。	大学の広報誌、刊行物、自己点検・自己評価報告書	資料分析	海外拠点の数と場所(国と都市)	実績
			海外拠点設置の目的	大学の広報誌、刊行物、自己点検・自己評価報告書	資料分析、アンケート	設置目的が明文化されているか、実態と整合性が取れているかを評定する。	段階別評価
			プログラムや活動がどの分野に特化しているか、または多様性を見る。	大学の広報誌、刊行物、白書、年報、自己点検・自己評価報告書、ウェブサイト	資料分析、アンケート	留学生のリクルート、広報・リエゾン活動、同窓会の組織など、設置目的に見合った活動をしているか、を評定する。	段階別評価
	C) 地域連携	地域との連携による留学生支援のためのプログラムや活動	地域団体との連携数、プログラムや活動の意義、規模、実施頻度など、より具体的な実施状況の評価する。	国際交流担当部門の刊行物	資料分析	連携団体数とプログラムの数、各プログラムや活動の趣旨、実施状況(参加者数)	数値
			地域との連携が地域にどのような効果を生み、地域の国際化に貢献しているかを評価する。	報告書、ホームページ、広報誌、メディア(新聞)	資料分析	地域広報やメディアへのプログラム活動の紹介事例数	数値および内容
大学内の 授業にお けるカリ キュラム の国際化	A) 言語教育	言語教育の目標設定とフィードバック	言語教育において目標を設定し、成果をフィードバックし、改善につなげる体制をとっているか?について評価する。	同上	同上	言語教育の目標設定(科目の成績、留学プログラムへの参加、標準テストの点数を卒業または進級要件とする、など)と成果を総合的に評定する。	段階別評価
		言語教育の効果的展開	実用的で高度な外国語運用能力を見つけるような言語教育を展開しているか?について評価する。	言語教育の教育プログラムの計画・実績報告に関する文書など	資料分析、学生の語学力評価、ヒアリング	言語教育において、Nativeによる授業の比率、海外語学研修への参加率、授業内容における実用的コミュニケーション能力の重視度、標準テストの活用度合いなどを総合的に評定する。(卒業時点で外国語の高度かつ実用的運用能力を得られているか)	段階別評価
	B) 一般教育科目 (外国語教育以外の 教養科目)	一般教育科目における国際的視点	専門教育以前の教養教育において、国際的視点をもった科目群が整備されているか、を評価する。	学科目要覧、シラバス、履修状況報告	資料分析、履修状況調査	教養科目(学部にかかわらず履修する共通科目)のうち、履修者の多い科目10科目程度のシラバスを確認し、国際的な視点のコンテンツ(海外事例の紹介、ケース・スタディー)が占める割合を算定する。	数値および内容評価
		異文化理解・異文化適応に関する教育プログラム	国際的人材養成の観点から、異文化理解・異文化適応に関する教育プログラムが整備されているか、を評価する。	学科目要覧、シラバス	資料分析、ヒアリング	教養科目において、異文化理解、異文化適応の関連科目の占める割合と履修者数、他の科目との比較をおこなう。	数値および内容評価
	C) 専門教育における 国際化	日本語以外による専門教育	多様なバックグラウンドの学生を受け入れ学習機会を提供するための努力をしているかを評価する。(日本語以外で学位取得が可能なプログラム、日本語以外で実施されている授業、など)	日本語以外で学位取得できるプログラムの募集要項、履修要綱	資料分析、ヒアリング	日本語以外で学位取得できるプログラムにつき、学生募集、選抜、プログラムの運営、科目選択の多様性、プログラム内容の水準、など、教育の質に着目して日本語の課程と比較して総合評価する。	数値および内容評価
				日本語以外で履修できる科目リスト	資料分析、ヒアリング	日本語以外で履修できる短期留学プログラムや、科目の運営につき、教育内容の質や多様性に着目して、日本語での科目と比較した評定をおこなう。	数値および内容評価
専門教育科目における国際的視点		専門教育科目において、国際的視点をもった科目群が整備されているか、を評価する。	学科目要覧、シラバス	資料分析、ヒアリング	専門科目の中から、当該大学においてとくに国際的な視点のコンテンツを提供していると考えられる科目から10科目程度を選び、国際的視点の導入とその効果について評定する。	数値および内容評価	

別表1: 大学国際化指標(チェックリスト)

大項目	中項目	小項目	評価の目的と評価課題	調査対象	調査・分析の手法	指標	ガイドライン
大学内の授業におけるカリキュラムの国際化	C) 専門教育における国際化	国際標準を意識したカリキュラム設計	国際的なア krediteーション機構に参加しているか? 学位、成績証明、シラバスなどの英語表記をすすめるなど、教育内容が国際的に認知されるように努めているか? を評価する。	参加するア krediteーション機構に関する文書	資料分析、ヒアリング	ア krediteーション機構からの評価、指摘を受けた内容に関連し、カリキュラム上適切な対応をおこなっているか、を評定する。	内容評価
学外機関との連携によるカリキュラム(教育交流・インターンなど)	A) 国際プログラムの総合的課題	国際プログラムによる単位取得状況	交換留学、短期研修、海外インターンシップ、海外フィールドワークなどが、カリキュラム全体にどれくらいの割合を占めているか、を評価する。	単位の取得状況	資料分析	交換留学、短期研修、海外インターンシップ、海外フィールドワークなどにより、取得された単位総数が全カリキュラム単位総数に占める割合	数値実績に基づく段階評価
		国際プログラムにかかわる自己点検と改善状況	交換留学、短期研修、海外インターンシップ、海外フィールドワークなどについて、自己点検、学生による評価、などの実施状況と改善状況を評価する。	自己点検、学生による評価などの資料	資料分析、ヒアリング	自己点検、学生による評価などにより、指摘された事項と改善状況などを分析し、自己点検などが国際プログラムの改善につながっているか、を評定する。	内容評価
	B) 教育交流	交換留学等の実績	交換留学の実績(参加者数、単位互換の実数)などをみて、協定校のリソースを有効に活用したプログラムを展開しているかを評価する。	交換留学実績資料	資料分析、ヒアリング	全学生に占める交換留学参加者数の割合、交換留学により取得された単位総数が全カリキュラム単位総数に占める割合	数値実績に基づく段階評価
			協定先大学において、交換留学に関する評価と認定がおこなわれているかを確認する。	交換留学関連資料	資料分析、ヒアリング	交換留学などで当該大学で取得した科目などが、母校でどのように認定されているか、評価する。	数値実績に基づく段階評価
		短期海外研修の実績	短期海外研修の実績(参加者数、取得単位数)などをみて、短期海外研修がカリキュラムに果たしている役割について評価する。	短期海外研修実績資料	資料分析、ヒアリング	全学生に占める海外研修参加者数の割合、海外研修により取得された単位総数が全カリキュラム単位総数に占める割合などを算定する。	数値実績に基づく段階評価
		運営サポート体制	教育交流の円滑な運営のためのオリエンテーションなどを効果的に実施しているかを評価する。	説明会、ガイダンス、オリエンテーションなどの実施状況、配布資料	資料分析、ヒアリング	教育交流のための説明会、事前および事後ガイダンス、オリエンテーションの実施回数、参加比率、ガイダンス内容(交流先プログラムとの連携、危機管理対応)を総合評価する。	段階評価
	C) 大学間連携によるプログラム評価	国際共同授業	国外の大学との共同授業などの事例があれば、この授業の効果とともにカリキュラム全般に与えるインパクトなどにつき、評価する。	授業シラバスおよび関連資料	資料分析、ヒアリング	国際共同授業が実施されている場合の受講学生の全学生に対する比率、参加する教員の比率、他の科目へ影響などを総合的に評定する。	段階評価
		国際共同学位	国際共同学位プログラムが実施あるいは検討されている場合に、その直接的な効果とカリキュラム全般に与える影響について評価する。	共同学位プログラム関係文書、または計画書	資料分析、ヒアリング	国際共同学位プログラムが実施されている場合の学位取得見込み者の全学生に対する比率、共同プログラムにかかわる教員の比率、他の学位プログラムへ与える影響などを総合的に評定する。	段階評価
		国際コンソーシアム	国際コンソーシアムが実施あるいは検討されている場合に、その直接的な効果とカリキュラム全般に与える影響について評価する。	コンソーシアム関係文書、または計画書	資料分析、ヒアリング	国際コンソーシアムにより、学生が受講できる科目(選択肢)がどれくらい増加したかの比率、コンソーシアム傘下の他大学の学生が当該大学の単位の取得した実績、参加する教員の比率、他の科目への与える影響などを総合的に評定する。	段階評価
	D) 新規プログラム開発	海外インターンシップ・海外フィールドワークなど	海外でのインターンシップやフィールドワークなど、新規の取り組みを積極的に開発または実施しているか、を評価する。	授業シラバス	資料分析、ヒアリング	海外で独自に開発した海外インターンシップ、フィールドワークの参加者数、取得単位数のデータをもとに、新規プログラムを総合的に評定する。	段階評価